

人生の糸に紡がれた日々

定年退職してから 26 年が経ちました。その間、カメラはフィルムからデジタルへと進化し、私の写真撮影の趣味も新たな時代に適応してきました。海外旅行をする際、かつてはフィルムの本数に気を使い、その限られた枚数の中で美しい瞬間を捉えることに腐心していました。しかし、デジタルカメラの登場により、その心配から解放され、自然の風景や花々を存分に撮影できるようになりました。

写真はただ撮るだけではなく、デジタル化されたことで PC を使った編集加工が容易になり、私の創造性をさらに引き出してくれました。ホームページにアップする映像をスライドショーに編集し、背景音楽を加えることで、訪れる人々に美しい写真の世界を提供してきました。

特に、コマクサの群生地を訪れた時の記憶は鮮明です。高山の厳しい環境の中で咲くコマクサは、その生命力と美しさで、私の心に深い感動を与え、人生の糸に紡がれた日々の中で、特別な輝きを放っています。

そして 8 年 5 ヶ月前、日々の生活で感じたことを週毎にまとめ、朗読とタイトルを添えた川柳一句を公開し始めました。病気で入院した時を除き、一度も中止することなく続けてきたこの活動は、私にとって大きな誇りであり、生き甲斐となっています。

今では、日々の出来事を詳しく記録し、心に強く感じたことを深く掘り下げて書き留めることが、認知症予防にもつながり、より充実した日誌のページを作り上げています。川柳を新聞に投稿することも始め、紙面に掲載される喜びを初めて味わいました。川柳は季節や自然、思い感じたことを自由に表現できる魅力があります。今では毎週作成した川柳をネットで発信しています。これからも毎週 3 句を作成し、投稿を続けるつもりです。我流の川柳は、妻に閲覧してもらいながら、掲載されるような作品を目指していきます。

感動の瞬間は、日常の中で予期せず訪れることがあります。それは新聞の川柳欄に自分の作品が掲載されることかもしれませんし、春の息吹を感じさせる花々の開花かもしれません。私にとって、感動は日々の生活の中で静かに、確実に心を動かすものです。

中央新聞の長野・山梨県版と OB 新聞に川柳を投稿してからもう 4 年が経ちます。木曜日の掲載は今や週のハイライトであり、毎週 3 句を送り続けています。選者からの講評を受けることは、創作活動における大きな喜びの一つで、特に、「さあやるぞ スタートダッシュで 春の風」という句は、私に活力を与えてくれました。

今年の冬は雪が少なく、早春の花々が早くも顔を出しています。撮影機器が故障してからはスマホでの撮影に切り替えましたが、過去に撮りためた写真はスライドショーとしてネットに保存し、いつでも閲覧できるようにしています。これらの写真を見るたびに、その時の状況が蘇り、花の美しさに心が癒されます。

感動は、心を深く動かされる経験です。春相撲の 15 日間も終わり、郷土出身の御嶽海を応援しながら、横綱照ノ富士の取り組みに特に心を打たれました。彼は怪我と病気を乗り越え、序二段からの再起を果たしました。彼の姿は、「絶対に諦めず、日々努力すれば夢は叶う」というメッセージを私たちに教えてくれます。

後期高齢になっても、感動や刺激を求め続けることは、人生を豊かにする秘訣です。平凡な日々の中でさえ、感動を見つけ出し、それを大切にすることで、毎日がより意味のあるものになります。私はこれからも、感動を求め、創作活動を通じて心を動かし続ける人生を歩んでいきたいと思えます。